

保育者に関するアサーション研究の動向と展望

白取 真実¹⁾・齋藤 恵子²⁾・小島 道生³⁾

1) 帝京短期大学 2) 貞静学園短期大学 3) 筑波大学

【抄録】

【問題・目的】 保育者のストレスの要因（以下ストレスサーとする）として、人間関係からくるストレスサーがあげられる。この、人間関係からくるストレスサーは、自己主張（アサーション）と関連があることが指摘されており、自己主張が苦手な人はストレスを抱えやすいという報告もある。アサーションは米国で生まれた自己表現の方法であり、自分の主張を一方向的に述べるのではなく、相手を尊重しながら適切な方法でコミュニケーションをとることを指している。保育者は、子ども、同僚、保護者と多くの人と関わりながら仕事をするため、アサーティブなコミュニケーションの方法を獲得することが求められる。本研究では、我が国におけるアサーションに関する研究の動向を明らかにし、保育者へのアサーションの有効性と活用に向けた可能性を考察することを目的とする。

【方法】 保育者とアサーションの内容を含む先行研究 10 点の先行研究の概観を行った。

【結果】 保育者とアサーションに関する内容を含む先行研究としては、以下のものがあげられた。①保育者・教諭のアサーション尺度の開発、②保育者に求められるコミュニケーション能力、③保育者のメンタルヘルスとアサーションとの関係、④子どものアサーションをどのように育てるかに関する内容であった。

【考察】 これまで、保育者を対象としたアサーション研究は非常に少ない。アサーティブなコミュニケーションを獲得することは、保育者のストレスの減少やメンタルヘルスの向上に繋がるという効果が期待できることから、研究の積み重ねが求められる。今後の課題としては、保育者のアサーティブの特徴を明らかにすることである。保育者と同じ専門職である看護領域においては、アサーティブトレーニングの有効性が多数検証されていることから、保育の職場を想定したアサーティブトレーニングの開発が求められる。

【キーワード】 保育者, アサーション, 自己主張, ストレス

I. 問題の所在と目的

1. はじめに

幼稚園教諭及び保育士（以下、「保育者」と明記）の不足や、早期離職の問題が深刻化している^{1,2)}。慢性的な保育者不足や、子育て家庭の変化に対応する支援の難しさ、労働環境の厳しさから、保育者の心身の負担は過重になっていることが指摘されており^{3,4)}、子どもの健全な成長を支えるためにも、保育者の精神的健康を保持・増進することが求められている。

保育者の精神的健康やストレスに関しては、数多くの調査が実施されてきた。保育者のストレスの要因となるストレスサーを概観すると、

子どもへの対応・理解の難しさ、同僚・保護者を含めた人間関係の難しさ、労働条件・処遇等からくる負担感、自己の能力不足、子育て家庭の環境や社会的要因からくるものなどがあげられている⁵⁻⁶⁾。これら保育者が抱えるストレスサーのうち、人間関係からくるストレスは特に精神的な負担が大きいことが指摘されている⁷⁾。

この人間関係からくるストレスを軽減する効果が期待できるものとして、アサーションがあげられる。アサーションとは米国で生まれた自己表現の方法であり、自分の主張を一方向的に述べるのではなく、相手を尊重しながら適切な方法でコミュニケーションをとることを指している⁸⁾。看護領域を中心に、アサーティブネス

尺度の開発や因子分析によるアサーティブタイプの分類⁹⁾、アサーティブトレーニングが開発されている¹⁰⁻¹¹⁾。Christine, Raver, & Champion, & Sardin, & Metzger, & Jones, Coleen, (2000)によると、アサーティブトレーニングは特に女性のストレスへの対処に効果があるとされており、メンタルヘルスの向上や、離職の予防への効果が期待されている¹²⁾。

保育者の職場ストレスを明らかにした西野・白井・木村・荒井(2001)によると、人間関係からくるストレスへの耐性は自己主張のしやすさと関連があるとしている¹³⁾。保育者は、子ども、同僚、保護者と多くの人と関わりながら仕事をするため、アサーティブなコミュニケーションの方法を獲得することは、保育者のストレスの減少やメンタルヘルスの向上に繋がるという効果が期待できる。

2. アサーションとは

(1) アサーションの定義

アサーションは、1950年代の米国で誕生し、我が国においては1980年代に平木典子により導入され¹⁴⁾、1990年代以降は翻訳版や書籍が次々と出版されている¹⁵⁻¹⁶⁾。

ジーニアス英和辞典によると、アサーション(Assertion)とは、名詞で自己主張、断言、断定と訳されている¹⁷⁾。日本文化における自己主張という概念は、我が強い、自分の意見を押し通すという負のイメージもあり、米国と日本におけるアサーションの捉え方の違いを指摘する声もある¹⁶⁾。そのため、アサーションを導入した平木(1993)は、あえて和訳を用いず、そのままアサーションという言葉を使用している¹⁸⁾。

また、アサーションに関連する書籍や論文の中には、アサーティブ(Assertive)¹⁹⁾、アサーティブネス(Assertiveness)²⁰⁾などの表記ある。そこで、用語の整理をすると、アサーティブは形容詞であり、自分の意見をはっきり述べる、積極的に主張するという意味がある。アサーティブネスは、アサーションと同じく名詞であり、意味も相手にも配慮した自己主張と訳される²¹⁾。また平木(1993)は、アサーティブな態度のことをアサーティブネスと呼んでいる²²⁾。辞典による和訳の他に、アサーションには「率直な自己表現」というアサーティブな行動と、「自他尊重」などのアサーティブな態度の側面が

含まれているとされている²³⁾。

本研究では、「アサーションとは、自分の気持ち、考え、信念などを、率直に正直に、その場にふさわしい方法で表現し、相手が同じように発言することを推奨しようとする、自他尊重の自己表現である」という平木(1993)の定義を使用する²⁴⁾。

(2) 個人が有するアサーションの特徴について

アサーションの特徴として、いくつかのタイプがあることが明らかにされている。平木(1993)は、自己表現の特徴を3つのタイプに分類している。

一つ目は、ノンアサーティブ(非主張的)な自己表現である。これは、自分の気持ちや考え、信念を表現しなかったり、しそこなったりすることで、自分から自分の言論の自由(人権)を踏みにじっているような言動のことである²⁵⁾。

二つ目は、アグレッシブ(攻撃的)な自己表現である。これは、自分の意見や考え、気持ちをはっきりと言うことで、自分の言論の自由を守り、自分の人権のために自ら立ち上がって、自己主張するタイプである。相手の言い分や気持ちを無視、または軽視して、結果的に、相手に自分を押し付ける言動のことである。

三つ目は、アサーティブ(主張的)な自己表現である。これは、自分も相手も大切にしたい自己表現のことである。こうした3つのタイプの自己表現は各自がそれぞれすべて行っているのが普通であり、相手や状況によって変化するとされている²⁶⁾。

これに対して、アメリカでは四つ目のタイプ(間接的攻撃的)の存在を認めており、看護師を対象にアサーションのタイプを検討した渋谷(2007)は、消極的かつ攻撃的な自己表現のタイプを明らかにしている²⁷⁾。アサーションは、職業による影響を受けるという指摘もあり²⁸⁾、保育者がどのようなアサーションの特徴を有しているのかを明らかにすることは、より効果的なアサーティブトレーニングの開発につながるという効果が期待される。

(3) アサーションを測定する尺度について

アサーションを測定する尺度については、欧米で作成されたものの翻訳版と、日本オリジナル版がそれぞれ作成されている。アサーション

を測定する尺度として代表的なものとして以下2つあげる。一つ目は、Rathus Assertiveness Schedule (以後RAS) があげられる。これは日本語版が作成されており、信頼性・妥当性が検討されている、世界各国で最も使用されている検査である²⁹⁻³⁰⁾。二つ目としては、College Self-Expression (以後CSES) をあげる。この検査は、他者との関係における主張性の程度を測定するという特徴をもっており、こちらも日本語版が作成されている³⁰⁻³¹⁾。

アサーションは自他尊重に基づく自己表現とされているが、アサーションの構成概念を一次元と多次元から論じるものがあるとされている³²⁾。この場合、RASは一次元として捉えることができ、個人の自己表現行動の在り方を把握することができるという特徴がある。一方、CSESや菅沼のアサーティブ・チェックリストは多次元尺度に分類され、他者との関係を捉えることができるという特徴があげられる。

谷口・永野・佐々木(2005)は、アサーティブトレーニングの実施により、対人関係が円滑になり、自己肯定的な気持ちが生じる、ストレスが低減するなどの効果がみられる一方で、アサーティブな行動の側面を測定する従来のアサーション尺度では、その変化がとらえられないことを指摘している³³⁾。また、定義にも様々な捉え方のあるアサーションについては、他者との相互作用や、集団の力が発生することから、個人のアサーションを測定することが難しいと言われている概念である³⁴⁾。今後、保育者へのアサーション研究を進めるにあたっては、一次元か多次元かという検討や、信頼性・妥当性の高い測定尺度の開発を検討していくことが必要であろう。

II. 本研究の目的

本研究では、保育者へのアサーションの活用に向けた可能性を考察することを目的とする。保育とアサーションに関連のある先行研究から、我が国における保育とアサーションの研究の概観を明らかにすることとした。

III. 研究の方法

本研究の目的にあった文献を選択するため、

電子ジャーナルベース国立国会図書館サーチ、CiNii、Tulips Search、Google Scholarを使用した。キーワードとして、「保育」「保育者」「保育士」「幼稚園教諭」「アサーション」「アサーティブ」「アサーティブネス」「自己表現」「自己主張」「コミュニケーション」を用いた。保育とアサーションの内容を含む先行研究を調べると、10点の先行研究があげられた。この先行研究を基に、概要をまとめていく。

IV. 結果と考察

保育とアサーションについて関連のある先行研究10点について、研究の概要をまとめたものをTable 1に示した。1980年代に日本に取り入れられたアサーションは、2000年代以降から保育・教育の場においても研究がすすめられてきた。この結果を基に、我が国で行われている保育とアサーションについての先行研究の概要をまとめる。

1. 保育者用アサーション尺度について

保育者のアサーションを測定する尺度としては、西野・白井・木村・荒井(2001)が行った、自己主張尺度があげられる⁴⁵⁾。保育者の自己主張の対象として、保護者・同僚・上司・家族の4つを想定して、「文句を言う」「頼みごとをする」「会話を始める」「要求を断る」「個人的意見を言う」「不快を表す」「自分の権利を述べる」8項目からなる質問紙を作成している。この尺度の特徴としては、他者との関係を捉えることができるという多次元尺度になっている点である。

また、柴橋・楨(2013)は、保育者同士の関係に焦点を当てて、自己表明と他者の表明ののぞむ気持ちに関する尺度を開発している。因子分析を行なった結果、保育者同士の関係における自己表明としては、嬉しさの表明と提案・意見の表明の2因子を明らかにしているが、他者の表明を望む気持ちにおいては1因子構造となっている⁴⁶⁾。

上記の結果から、保育者のアサーションを測定する尺度の開発は非常に少ないということが分かる。保育者のアサーションの傾向を捉えるためには、保育者個人が持つアサーションの特徴を明らかにすることが必要であると考えられる。

2. 保育者に求められるコミュニケーション能力について

保育者に求められるコミュニケーション能力についてはいくつかの報告があげられる。杉山(2018)は、保育者同士、対保護者の視点から、保育者に求められるコミュニケーション能力の調査を行っている。保育者同士のコミュニケーションにおいて難しさを感じた際の状況については、相手への伝え方・受け取り方の違い、コミュニケーションをとるタイミング、自分の受け止め方、相手の性格や気質を理解した上でのコミュニケーションが求められるとしている。また、保護者とのコミュニケーションについて

は、話す内容がわからない、伝えにくい内容を話す、自分の想いが伝わらないなどの、保護者の個性をつかんだ個別的な対応が難しいことを報告している⁴⁷⁾。また、庭野(2018)は、保育者が保育者間、保護者、子ども、若い保育者や保育学生等の多くの人との関りの中でのコミュニケーションを求められる職業であることを指摘している⁴⁸⁾。

このように、保育者は様々な人と接する職業であることから、高いコミュニケーション能力が求められていることが分かる。しかし、このコミュニケーションの方法については、それぞれの幼稚園や保育所(以下保育施設とする)が

表 1. 保育とアサーションに関する先行研究一覧

No	著者名	年	タイトル	概要
1	西野ら ³⁵⁾	2001	保育者のストレスに関する基礎的研究	保育所に勤務する者(保育士164名, その他栄養士・調理士, 用務員39名)。ストレス耐性と自己主張のしやすさの関連についての質問紙調査。
2	榎ら ³⁶⁾	2010	保育の職場と表現—自己表現を大切にする保育園でのフィールドワークから—	W 保育園の取り組みをインタビューと質問紙調査により調査
3	石川 ³⁷⁾	2012	幼児の自己主張に対する保育者の意識と援助—「いや」という場面を中心に—	保育者285名。質問紙調査。子どもの自己主張場面における保育者の意識の調査。
4	高橋 ³⁸⁾	2012	幼児教育・保育におけるアサーション・トレーニングのイメージ	保育経験者2名。アサーション・トレーニングに対するイメージをPAC分析により調査。
5	奥田ら ³⁹⁾	2012	感情共有コミュニケーション尺度開発の試み	福祉専門職423名(知的障害者施設, 高齢者福祉施設, 保育所)。質問紙調査。
6	柴橋ら ⁴⁰⁾	2013	保育者の「自己表明」および「他者の表明を望む気持ち」: 職場適応感との関連に焦点を当てて	幼稚園150名, 保育所40名の保育者190名を対象とした質問紙調査。
7	庭野 ⁴¹⁾	2017	保育者に求められるコミュニケーション能力に関する研究	文献検討とグループインタビュー
8	杉山 ⁴²⁾	2018	保育者の専門性としてのコミュニケーション能力—初任保育者を対象とした調査結果を踏まえて	初任保育者(195名)への質問紙。新任保育者の保護者や保育者に対するコミュニケーションの実態調査。
9	加藤ら ⁴³⁾	2019	大学生の人間関係力育成に関する研究の動向と保育者養成教育への活用に向けて	人間関係力を育む保育者養成教育について検討するため、大学生の人間関係力育成に関する国内の文献検討。
10	張ら ⁴⁴⁾	2019	保護者—保育者間のコミュニケーションに関する保育者の語り	フリー保育士1名へのインタビューの分析

保有する体質により異なることが指摘されている⁴⁹⁾。榎・柴橋(2010)は、アサーションを含めたコミュニケーションの方法の良し悪しが、保育施設によって大きく異なるとしている。また、そこには園長やベテラン保育者の影響が強いことを指摘している⁵⁰⁾。このことから、保育者とアサーションの関係においては、保育者個人が有する特性の他に、保育者がおかれる保育施設の文化により影響を受けることを考慮する必要がある。

3. 保育者のメンタルヘルスとアサーションとの関係

保育者の職場ストレスは、人間関係からくるストレスが大きく、このストレスは自己主張のしやすさと関係があることが指摘されている⁵¹⁾。奥田・尾野・荒木・茂木(2012)は、保育者を含む福祉専門職者に対して、アサーションの概念も含む感情共有コミュニケーション尺度を開発し、精神的健康度と合わせて調査を行った。その結果として、感情共有コミュニケーションが福祉専門職者の精神的健康に与える影響を以下のように報告している。福祉専門職者の多くは、職場で自分の感情を表現するべきではないという意見がある一方で、精神的健康度 GHQ12 との関連では、自分の気持ちを他者と共有する努力が不安や抑うつを改善するという結果を示した。加えて、感情を表現する程度を低・中・高群に分けた場合、中群にあたる者が、精神的に健康であるとした⁵²⁾。

このことから、感情表現ができる者が、精神的健康上状態が良いとは限らないことが分かる。保育者のアサーションについては、精神的健康度を合わせて調査することで、ストレス低減との関連についても明らかにすることが求められる。

4. 子どものアサーションをどのように育てるかについて

子どものアサーションをどのように育てていくかについて焦点を当てた研究としては、子どもの自己主張場面に対する保育者の意識を調査した研究があげられる。石川(2012)によると、保育者は子どもの素直な思いや自己表現に対し、集団への協調を意識して関わっていることを明らかにしている⁵³⁾。また、自己表現を大切にす

るW保育園のフィールドワークをまとめた榎ら(2010)によると、自己表現を大切にするこの保育所では、子どもたちが自分の言い分を主張するだけでなく、相手の意見に耳を傾ける姿を報告している⁵⁴⁾。

これらの結果から、保育者は子どもに対して、自分の意見を主張することだけでなく、相手の話を聞くことに主眼を置いて接していることが分かる。これは、集団や場の雰囲気を読むという日本文化特有のコミュニケーションの在り方を重要にしているのではないかと考える。

V. おわりに

本研究では、我が国におけるアサーションに関する研究の動向を先行研究から明らかにし、保育者へのアサーションの有効性と活用に向けた可能性を考察することを目的とした。

これまでの保育とアサーションに関する先行研究を概観すると、1. 保育者用アサーション尺度について、2. 保育者に求められるコミュニケーション能力について、3. 保育者のメンタルヘルスとアサーションの関係、4. 子どものアサーションをどのように育てるかという内容に分類することができた。

では、保育者へのアサーションの有効性について考えていった。榎原・富塚・遠藤(2017)によると、保育者が自分の気持ちを表に出し、他者と共有するということは、精神的健康度 GHQ の不安や抑うつを改善することを報告している⁵⁵⁾。このことから、自他尊重に基づく自己表現であるアサーションを身に付けることは、精神的健康度を保つ上で重要であると考えられる。保育者は、職務にふさわしい感情を自ら誘発したり、抑圧したりすることが求められることがあり、このように自分の感情をコントロールすることを感情労働という⁵⁶⁾。保護者支援における感情労働をインタビューにより調査した神谷(2013)によると、保育者は保護者に対して否定的な感情を抱いた場合、その感情を「隠蔽」して対応することを明かにしており、これも保育者の専門性であることを指摘している⁵⁷⁾。アサーションとは、必ずしも自分の意見を主張するのではなく、主張しないことを選択することもアサーションがもつ権利の一つであるとされている⁵⁸⁾。このようなことから、保育者がアサーティ

ブな態度を身に付けることは、保育者の専門性の向上にも繋がる重要な概念であると考え。

また、保育者は子どもだけでなく、保護者や同僚など多くの人と関り仕事を進めていく中で、相手により自己主張やコミュニケーションの方法を変えることが求められている。保護者への支援については、傾聴が重要であり、保護者の課題を引き出し問題解決に向けた対策及び保護者自身が自己決定できるようにしていくことが重要である⁵⁹⁾。しかし、これまでの先行研究において、保育者と保護者に焦点を当てたアサーション研究は筆者の知る限り見当たらなかった。園田(2002)によると、臨床の場面でアサーションを志向する場合、与えられた「役割」と、自分自身の気持ちに折り合いを付けていくことが求められるとしている⁶⁰⁾。現在、保護者支援の内容が多様化複雑化していることから、保育場面を想定したアサーティブトレーニングの開発が有効であると考え。

最後に、近年、人間関係を円滑に進め、また個人の精神的健康にもつながる自己表現の方法としてアサーションが注目されている。日本の文化の中において自己表現という概念は、我が強いなどと悪いイメージで捉えられる傾向もある。しかし、アサーションの中には、自己表現する他に、自分の意見を主張しないでいる、自分のことを自分で決めるなどがあげられる⁶¹⁾。アサーションを提唱した Alberti et al. (1990) によると、すべての人間は個人として平等であり、基本的人権を有していることを前提に、他人を傷つけない限り、誰でもアサーションの権利を持っているとした⁶²⁾。基本的人権を保障した自己主張こそがアサーションの正しい捉え方である。今後、保育者がアサーションについての基本的な概念を理解し、アサーションの仕方を身につけることは、保育者の支援へ繋がるという大きな効果が期待できる。

【文献】

- 1) 濱名陽子 (2017) 保育人材確保のための施策に関する一考察. 教育総合研究叢書, 10, 217-230
- 2) 益山未奈子 (2018) 日本の保育士不足に対する賃金の影響 — 政策動向及び米英の調査研究からの検討 — 保育学研究, 56 (3), 45-55
- 3) 池田幸代・大川一郎 (2012) 保育士・幼稚園教諭のストレスが職務に対する精神状態に及ぼす影響 発達心理学研究, 23 (1), 23-35
- 4) 上村眞生 (2012) 保育士のメンタルヘルスに関する研究 — 保育士の経験年数に着目して — 保育学研究, 50 (1), 53-60
- 5) 赤田太郎 (2010) 保育士ストレス評定尺度の作成と信頼性・妥当性の検討 81 (2), 158-166
- 6) Christine, L. G., Raver, C. C., & Champion, K., & Sardin, L. G., & Metzger, M., & Jones, S. M. (2010) Understanding and Improving Classroom Emotional Climate and Behavior Management in the “Real World” The Role of Head Start Teachers’ Psychosocial Stressors. *Early Education and Development*, 21 (1), 65-94.
- 7) 治部哲也・小山秀之 (2018) 保育士のストレス — および職務や職場環境に対する認識がワーク・エンゲイジメント及びストレス反応に及ぼす影響 関西福祉科学大学 EAP 研究所紀要, 12, 25-35
- 8) 村田努 (1996) 保育者のストレス状況とその要因 白梅短期大学紀要, 32, 135-147
- 9) Claes, F., Robert, A. W. (1979) An Exploratory Study of Assertiveness, Aggressiveness, and Consumer Complaining Behavior. *Advances in Consumer Research*, 6, 105-110.
- 10) 渋谷菜穂子・奥村太志・小笠原昭彦 (2007) 看護師を対象とした Rathus Assertiveness Schedule 日本語版の作成 日本看護研究会雑誌, 30 (1), 79-88
- 11) Yoshinaga, N., Nakamura, Y., & Tanoue, H., & MacLiam, F., & Aoishi, K., & Shiraishi, Y. (2018) Is Modified Brief Assertiveness Training for Nurses Effective? A Single-Group Study with Long-Term Follow-Up. *Journal of Nursing Management*, 26 (1), 59-65.
- 12) Coleen, S. T., Kimberly, G. B., Jesse, D. B. (2000) The Effects Of Self-Efficacy, Assertive-ness, Stress, And Gender On Intention To Turnover In Public Accounting. *The Journal of Applied Business Research*, 16 (3), 63-74.
- 13) 西野美沙子・白井秀明・木村進・荒井龍弥 (2001) 保育者のストレスに関する基礎的研

- 究 感性福祉研究所年報, 2, 205-212
- 14) Alberti, R. E., Emmons, M. L. (1990) *Your Perfect Right : A Guide to Assertive Behavior*, 6nded. San Luis Obispo, California : Impact Publishers. 菅沼憲司・ミラー・ハーシャル訳 1994 自己主張トレーニング, 東京図書
 - 15) 平木典子 (1993) *アサーショントレーニングーさわやかな自己表現>のためにー*, 金子書房
 - 16) 大串亜由美 (2006) *アサーティブー「自己主張」の技術*, PHP ビジネス新書
 - 17) 小西友七・南出康世 (2010) *ジーニアス英和辞典第4版*, 共同印刷株式会社, 117
 - 18) 岩船展小・渋谷武子 (1999) *アサーティブ : 自分も相手も尊重するハッピーコミュニケーション*, PHP エディターズ・グループ
 - 19) 前掲 (15)
 - 20) 前掲 (16)
 - 21) 清水隆司・森田汐生・竹内昌子・赤築綾子・久保田進也・三島徳雄・永田頌史 (2003) *日本語版 Rathus Assertiveness Schedule (RAS) の作成と信頼性・妥当性の検討* 産業医科大学雑誌, 25, 35-42
 - 22) 前掲 (17)
 - 23) 前掲 (17)
 - 24) 前掲 (15)
 - 25) 前掲 (15)
 - 26) 前掲 (15)
 - 27) 前掲 (15)
 - 28) 前掲 (10)
 - 29) 前掲 (10)
 - 30) 前掲 (21)
 - 31) 鈴木英子・叶谷由佳・石田貞代・香月毅史・佐藤千史 (2004) *日本語版 Rathus assertiveness schedule 開発に関する研究* 日本保健福祉学雑誌, 10 (2), 19-29
 - 32) 用松敏子・坂中正義 (2004) *日本におけるアサーション研究に関する展望* 福岡教育大学紀要, 53 (4), 219-226
 - 33) 谷口敏淳・永野浩二・佐々木和義 (2005) *アサーショントレーニングと他者理解との関連から考える相互尊重への試みー高校生を対象とした探索的研究ー* 発達心理臨床研究, 11, 73-83
 - 34) 前掲 (13)
 - 35) 前掲 (13)
 - 36) 槇英子・柴橋祐子 (2010) *保育の職場と表現ー自己表現を大切にする保育園でのフィールドワークからー* 淑徳大学総合福祉学部研究紀要, 44, 87-103
 - 37) 石川真由美 (2012) *幼児の自己主張に対する保育者の意識と援助ー「いや」という場面を中心にー* 愛知教育大学幼児教育研究, 16, 17-24
 - 38) 高橋均 (2012) *幼児教育・保育におけるアサーション・トレーニングのイメージ* 山口芸術短期大学研究紀要, 3, 33-39
 - 39) 奥田訓子・尾野明未・荒木みさこ・茂木俊彦 (2012) *感情共有コミュニケーション尺度開発の試み* 桜美林大学心理学研究, 3, 73-86
 - 40) 柴橋祐子・槇英子 (2013) *保育者の「自己表明」および「他者の表明を望む気持ち」ー職場適応感との関連に焦点を当ててー* 千葉工業大学研究報告 人文編, 50, 1-9
 - 41) 庭野晃子 (2017) *保育者に求められるコミュニケーション能力に関する研究* 研究年報, 22, 73-76
 - 42) 杉山喜美恵 (2018) *保育者の専門性としてのコミュニケーション能力ー初任保育者を対象とした調査結果を踏まえてー* 東海学院大学短期大学部紀要, 44, 7-22
 - 43) 加藤由美・安藤美華代 (2019) *大学生の人間関係力育成に関する研究の動向と保育者養成教育への活用に向けて* 岡山大学教師教育開発センター紀要, 9, 337-350
 - 44) 張貞京・真下知子 (2019) *保護者ー保育者間のコミュニケーションに関する保育者の語り* 京都文教短期大学, 57, 13-21
 - 45) 前掲 (13)
 - 46) 前掲 (40)
 - 47) 前掲 (42)
 - 48) 前掲 (41)
 - 49) 前掲 (38)
 - 50) 前掲 (36)
 - 51) 前掲 (13)
 - 52) 前掲 (39)
 - 53) 前掲 (37)
 - 54) 前掲 (36)
 - 55) 榊原良太・富塚ゆり子・遠藤利彦 (2017) *子ども・保護者との関わりにおける保育士の認知的な感情労働方略と精神的健康の関連*

発達心理学研究, 28, 1, 46-58

- 56) 神谷哲司・戸田有一・中坪史典・諏訪きぬ
(2011) 保育者におえける感情労働と職業的
キャリア 東北大学大学院教育学研究, 59,
2, 95-112
- 57) 神谷哲司 (2013) 保護者とのかかわりに関す
る認識と保育者の感情労働 — 雇用形態によ
る多母集団同時分析から — 保育学研究,
51, 1, 83-93
- 58) 前掲 (17) p256
- 59) 植木信一 (2019) 子ども家庭支援論, 建帛
社, 131
- 60) 園田雅代 (2002) クライエント中心療法から
見るアサーション教育の効果; 参加者の〈語
り〉を手がかりに, 創価大学教育学部論集,
53, 17-38
- 61) 前掲 (15)
- 62) 前掲 (14)
- 63) 植木信一 (2019) 子ども家庭支援論, 建帛
社, 131
- 63) 前掲 (15)
- 64) 前掲 (14)

Trends and prospects for assertion research on preschool teachers

Mami SHIRATORI¹⁾ • Keiko SAITO²⁾ • Michio KOJIMA³⁾

1) Teikyo Junior College 2) Teisei Junior College 3) University of Tsukuba

【abstract】

【Purpose】 One of the factors that cause stress (after this referred to as "stressor") for preschool teachers is the stressor resulting from interpersonal relationships. Psychologists say this stressor is related to self-assertion, and reports indicate that people who are not good at asserting themselves are more vulnerable to stress. Assertions are a method of self-expression born in the United States. It refers to communicating appropriately while respecting the other person, rather than pressing a one-sided statement. Preschool teachers need to acquire assertive communication methods because they work with many people, such as children, colleagues, and parents. This study aims to clarify Japanese research trends on assertions and examine the possibility of utilizing assertion methods for preschool teachers.

【Methods】 We reviewed 10 previous studies, featuring preschool teachers and assertions.

【Results】 Studies featuring preschool teachers and assertions highlighted the following five subjects.

1. Development of assertion scales for preschool and school teachers.
2. Communication skills required for preschool teachers.
3. Relationship between preschool teachers' mental health and their assertions.
4. How to raise children's assertions.

【Discussion/Conclusion】 So far, there have been very few assertive studies targeting preschool teachers. Acquiring assertive communication skills can be expected to reduce preschool teachers' stress, leading to their improved mental health. Therefore, further research is required. The remaining task is to clarify the characteristics of preschool teachers' assertiveness. In nursing, which is a similar profession as childcare, the effectiveness of assertive training has been verified in large numbers. So, it is necessary to develop assertive training that assumes a childcare workplace.

【Key words】 Preschool teacher, assertive, self-assertion, stress